

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

研究主題

「児童同士の交流を通して考えを深められる

読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

八王子市立城山学校

教諭 白尾 隆

第1 主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点に立って授業改善を行うことが示されている⁽¹⁾。また、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」と述べられている。小学校学習指導要領国語編には、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語科で正確に理解し適切に表現する資質能力を育成することをめざす。」と明記されている⁽²⁾。

しかしながら、本学級において、研究を始める年度初めの段階で主体的・対話的で深い学びに至っていない点が見られた。具体的には次の2点である。

1点目は、考えをもつことができない児童が多い点である。また、考えをもつことができても詳しく書くことができず、結果的に書けた内容が浅い読みにとどまっていることも多かった。

2点目は、考えを深める話し合いが難しい点である。考えを深められるよう、話し合いを行なっているが、考えをもつことができても自分の考えに自信がもてない児童が多いため、話し合いを通し、児童に考えを深めさせることができていなかった。

このような実態を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、自分の考えをもつことができる児童、友だちとの交流の中で考えを深められる児童を育成していきたいと考えた。そこで研究主題を「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」と設定した。

本研究において、文学的文章における「考えを深める」とは、多種多様な考えに触れ、自分の考えを見直したり、再度構築したりすることだと考える。

そして、上記の課題を解決する上で、「考えをもつ」、「交流する」、「見直す」という指導過程で授業を展開していくことで考えを深めていくことにつながると考え、検証授業を行い、成果と課題を明らかにしていくことにした。

第2 研究仮説

「考えをもつ」、「交流する」、「見直す」という授業展開で授業を展開していくことで児童は考えを深められるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

① 学習指導要領における「深い学び」

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」（文部科学省）では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要であると述べられている⁽³⁾。そして、この三つの視点を手掛かりに質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。田村(2018)は、「深い学び」について、子どもたちが習得・活用・探究を視野に入れた各教科等固有の学習過程（プ

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

ロセス)の中で、それまでに身に付けていた知識や技能を存分に活用・発揮し、その結果、知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、構造化したり身体化したりしていくことと考えることができる」と述べている。また、「深い学び」の実現のためには、身に付けた知識や技能を活用したり、発揮したりして関連付けることが大切になると述べた上で、「深い学び」の実現に向かうような確かな学びになっているかどうか極めて重要であるとしている⁽⁴⁾。以上のことから授業改善をしていく中で、習得から活用や探究に至る深い学びを実現することが重要だと言える。

② 国語科における「考えを深める」

それでは、国語科、特に「読むこと」の領域で「考えを深める」ということは、どういうことなのだろう。学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」と述べている⁽⁵⁾。それを踏まえ、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（文部科学省）では、国語科の目標として「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語科で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」している。また、具体的に「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等を着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。」とある⁽⁶⁾。以上のことから、国語科では、言葉に注目していくことが大切だと読み取ることができる。つまり、子どもたちが言葉にこだわって理解したり、言葉にこだわって表現したりすることで、「言葉による見方・考え方」を働かせた深い考えを導き出せるようになるのである。「読むこと」の学習において言葉に注目し、言葉にこだわることは、叙述に注目し、その叙述の意味を考えることから読みを広げ、深くしていくことと言えるだろう。

③ 文学的文章の読みにおいて「考えを深める」

鶴田(2003)は、文学的文章の授業で何を教えるかという国語科指導の基本的な考え方として、教材内容、教科内容、教育内容の三層構造を提唱している⁽⁷⁾。

教材内容とは、教材固有の内容を指す。作品の中に登場する人物や作品の主題など「作品を教える」ことである。物語のあらすじをつかんだり、心情や人物像を読み取ったり、テーマを捉えたりすることがこれに当たると考えられる。

教科内容とは、国語科の基礎となっている文学表現の原理や方法など「読みの技術」である。起承転結の物語の展開のモデルや情景描写を読むことで反映されている心情をつかむことができることなどが例として挙げられる。

教育内容とは、人間の真実や本質、生き方など価値的な部分も含んだ国語の枠組みを超えて指導していくものである。物語を読んで、友情の在り方について考えたり、戦争文学を読んで平和について考えたりすることがこれに当たる。

この3つの内容を用いて、鶴田(2003)は、この三層構造を包摂した学習を行うことが重要だと述べている⁽⁸⁾。筆者のこれまでの経験によると、教材を教えることにとらわれてしまうと「教材内容」だけを指導する授業になってしまい、何となく浅い、深みのない授業になっていたように感じる。そして、学年にもよるが、「教科内容」や「教育内容」にも少し踏み込んでいくと、より深い読みにつながるように感じていた。そこでこれらのことを踏まえ、この三層構造を包摂した授業をしていくことが深い学びに繋がると考えた。

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

④ 低学年における「考えを深める」

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（文部科学省）では、低学年段階では次の事項を身に付けることができるよう指導することが明記されている⁽⁹⁾。

- ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
- イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
- エ 場面の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつこと。
- オ 文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。
- カ 文章を読んで感じたことやわかったことを共有すること。

以上のことを身に付けさせることができるよう指導していくのであるが、これらの指導事項をどう指導したら実際に子どもたちに能力として身に付けさせられるかを、さらに具体的に指導の仕方について考えるなかで掘り下げていく。

土居（2022）は「2年生全員に保障したいのが「叙述をもとにする」ということです。低学年の子どもは、読みの授業において往々として自分の空想になりがちです。」と述べている。低学年においても叙述に目を向けることが重要だと言える。低学年であっても、叙述を基に読むことで、上記の指導事項の獲得や定着につながるのだと考えられる⁽¹⁰⁾。

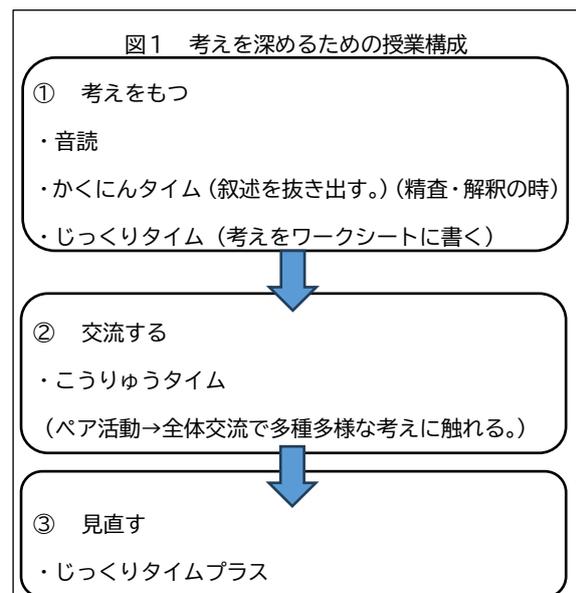
また、上月（2023）は、低学年の子どもが学習に「楽しさ」を見出すかどうかということは、決して見落としてはならない重要なポイントと主張している。そして、深い学びは「達成させる」べきものではなく、かけがえのない一人一人の子どもの個性的な学びの過程に求めるべきものと述べている⁽¹¹⁾。つまり、低学年において「深い学び」に重点を置きつつ楽しみながら学んでいけるようにすることが重要であり、そのため、楽しんで読むことをしているなかで自然と「深い学び」に到達するのだというスタンスで授業に臨むことが必要だと言うことだろう。

⑤ 考えを深められる授業構成の提案

考えを深められる授業を実現させるため、上記の①から④において、習得したことを活用できるような場面をつくること、低学年であっても叙述に注目しながら読むこと、教材内容の読みから教科内容、教育内容の読みに広げていくこと、楽しみながら読むことを前提とすることが重要であることが分かった。そこで、本研究では、それらの要素を取り入れ、具体的な指導法として、「考えをもつ」→「交流する」→「見直す」の流れで授業を展開していくことが考えを深めていくことに繋がると考えた。

「考えをもつ」とは、叙述をもとに自分の考えをもつことである。考えを深めるためには、まず自分の考えをもつためにじっくりと考えることが重要だと考える。考えをもつ手掛かりになるよう、叙述に目を向けさせ、ワークシートに自分の考えをまとめることができるようにしていきたい。

「交流する」とは、ペア交流や全体交流を通し、友だちの考えに触れることである。考えを深めることができる全体交流をするためには、ペア交流に力を入れることが重要だと考えた。そこで、全体交流の



「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

前にペア交流を取り入れる。ペア交流では、自分の考えを書くことができた児童からランダムにペアで交流をし、終わり次第新しいペアを作り交流を行う。全体で発言をすることに抵抗がある児童も交流できると考える。また、全体交流で安心して自分の考えを発表できるようにしたいと考えた。三浦(2021)は、ペア交流について「子ども自身が必要性を感じていないところで「交流しましょう」と呼びかけても、価値のある意見交流は生まれません。結局のところ、交流の必然性を引き出しながら、話し合いの場を適宜最善な方法でデザインしていく必要があるのです。」と述べている⁽¹²⁾。そのため、「交流する」では、児童に必然性を感じられるような工夫をしていく。具体的には、「交流する」の手だてで述べる。

「見直す」とは、交流をした上でもう一度自分の考えを見直すことである。交流で多種多様な考えに触れ、「見直す」時間をとることによって、自分の考えが変わったり、より自信をもったりできると考えた。この流れでじっくりと考えることが考えを深めていく授業に繋がると考えた。

なお、低学年期では、「見直す」ためには、「考えをもつ」と「交流する」を重点的に、力を入れることが「見直す」に繋がると考える。そこで、「考えをもつ」と「交流をする」ことの手だてを重点的に考え、授業実践を行った。

2 調査研究

本研究では、以下の方法で調査研究を実施した。

- (1) 考えを深められる授業について今までの実践を振り返り、整理し、新たな実践を構築する。
- (2) 考えを深められる授業構成を取り入れた授業実践を行う。
- (3) 児童が記入をしたワークシートの記述内容を分析する。
- (4) 検証授業の実施の前後にアンケートを行い、結果を分析する。

3 授業研究

(1) 研究主題に迫る取り組み

① 「考えをもつ」手立て

(ア) 「かくにんタイム」

「かくにんタイム」とは、本時の主発問を考える際に手掛かりとなる叙述を確認したり抜き出したりする時間である。考えをもつことができない理由として、考えの基になる手掛かりが少ないと考えた。そこで、「かくにんタイム」を設け、本文に注目させる時間をとる。叙述から離れた空想の読みになりやすい低学年だからこそ叙述に目を向ける時間が効果的だと考えたのである。

(イ) 「じっくりタイム」

「じっくりタイム」では、登場人物の気持ちなどについてじっくり考え、ワークシートにまとめる活動である。メーターやグラフを用いて視覚的にわかりやすいようにし、児童が考えをもちやすいようにする。「かくにんタイム」と「じっくりタイム」で行ったことは、ワークシートにまとめるようにした。

「かくにんタイム」で叙述に目を向けさせ、「じっくりタイム」では、叙述を基に登場人物の気持ちを考えさせたいと考えた。

② 「交流する」ための手立て

(ア) 「こうりゅうタイム」

「こうりゅうタイム」は、「じっくりタイム」でもった考えを交流する時間である。「こうりゅうタイム」では、ペア交流と全体交流を行う。「見直す」につながる全体交流をするために、ペア交流と全体

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

交流に力を入れ、多種多様な考えに触れられるようにできると考えた。そのための手立てとして、3点を挙げる。

(イ) 話し合いの流れを掲示する。

多様な考えに触れるためには、ペア交流や全体交流を何のためにするのか目的感をもって話し合いに取り組むことが大切だと考えた。そこで、ペアや全体での交流の前に、話し合いの流れを児童に伝え、板書に掲示するようにした（写真1）。

写真1



(ウ) リアクションの話型

ペア交流と全体交流で友だちの考えを聞く際に、リアクションしながら話を聞ける児童を育成するために、リアクションの話型を作成した。この話型を通し、友だちの考えを聞く時に、友だちの考えと自分の考えを比較しながら聞き、多様な考えがあることに気付くことができると思った。また、リアクションを通し、「聞いてもらえる」と感じさせ、安心して自分の考えを言える雰囲気の中で学級づくりに繋がれると考えた。

(エ) いいねシール

いいねシールとは、ペア交流で考えを聞く際、友だちの考えを聞いて、よい考えだと感じたところに丸いシールを貼る活動である。単にシールを貼るだけでなく、よい考えだと思った「部分」にシールを貼るようにすることで、友だちの考えの細部にまで注目し、考えながら聞くペア交流をしていくことにも繋がると考える。

③ 「見直す」ための手立て

(ア) じっくりタイムプラス

ペア交流や全体交流をした上で、もう一度考える時間を設定した。このことにより、ペア交流と全体交流をした上で、もう一度自分の考えを見直し、考えることができると思った。

④ その他の取り組み

(ア) 朝学習

朝学習では、挿絵の並び替えの活動を行った。文学的文章では、構造と内容の把握で本文の流れを児童に理解させることが大切だと考え、朝学習の時間を用いて挿絵の並び替えの活動を行った。学習用端末を用いてミライシードのオクリンクを用いて、共有や比較の機能を使用し、自分の考えと友だちの考えを比べられるようにした。

写真2

(イ) 叙述や挿絵をよりイメージしやすくする取り組み

第8時では、児童が叙述をよりイメージできるよう等身大のおおかみの絵を教室側面に掲示した（写真2）。教科書に出てくるきつねの身長が児童の身長ぐらいだった場合おおかみの大きさは約2メートル近くの高さになる。その場合の実際のおおかみの大きさを教室に貼り、自分と比べることでより、きつねの心情により共感しながら考えをもてるようにした。



「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

3 検証授業（令和6年11月実施）

第2学年「くりかえしに気を付けてとうじょう人物の様子を読もう（「きつねのおきゃくさま）」の検証授業を実施した。全ての授業で「考えをもつ」、「交流する」、「見直す」という授業展開で行った。単元計画は補助資料に掲載する。

（ア）実践の概要

① 検証授業の本時の流れ 表1

時間	学習活動	○指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 （5分）	1 前時の振り返りを行う。 2 めあての確認をする。	○前時の児童のワークシートを紹介し、一～三場面でひよこ・あひる・うさぎに対する思いが強まっていることを想起させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> どうしてきつねはおおかみとたたかったのか考えよう。 </div>			
展開 （35分）	3 四場面の音読をする。 4 かくにんタイム きつねはどのように戦い どうなったのか本文の叙述 を抜き出す活動を通しきつ ねの行動を確認する。 5 じっくりタイム おおかみと戦っていた時 きつねは心の中でどんなこ とを考えていたのか考え、 ワークシートにまとめる。 6 こうりゅうタイム ① ペア活動を行う。 ② 全体交流を行う。	○ どうしておおかみと戦ったのか 考えながら音読をさせる。 ○ きつねが自分からおおかみと戦 ったことを確認する。 ○ 等身大のおおかみの絵を児童に 見せ、きつねになりきって気持ち を考えさせる。 ○ 机間指導を行い、本文の叙述を基 に考えを書くことを声掛けする。 ○ ワークシートを書けた人からペ ア活動を行う。 ○ きつねがどんなことを考えてい たか発表させる。	【思考、判断、表現】 文章の内容と自分の体験を結 び付けて感想をもっている。 （発言・ワークシートの記 述） 【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動を基にすすん で様子を考えている。 （個別学習・話し合いの様 子）
まとめ （5分）	7 じっくりタイムプラス 学習を振り返る。	○ 今回の授業で思ったこと感じた ことをワークシートにまとめさ せる。	

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

② 児童のワークシートより

ワークシートの考察として児童の読みを期待するレベルの指標を作成した。それを基に授業分析を行った。

表2

※この読みの観点は、指導教授の石丸憲一先生が作成した。

観点	スタートレベル	全体目標レベル	探究レベル
意味の一般化	全くの動物の話として読む	自分に当てはめて読む	人間一般の話に置き換えて読む
心情の理解	きつねの立場またはひよこ、あひる、うさぎの立場から心情を読む	ひよこ、あひる、うさぎの立場からきつねの心情を読む	3匹ときつねの気持ちの絡みを考えながら読む
3匹ときつねの関係	食べる⇔食べられる+3匹はきつねを大事に思っている	食べる⇔食べられる+互いを思い合っている	食べる⇔食べられる+互いを大事なものと思っている

表3

観点	スタートレベル	全体目標レベル	探究レベル
意味の一般化	0%	18.2%	81.9%
心情の理解	27.3%	0%	72.7%
3匹ときつねの関係	18.2%	0%	81.8%

意味の一般化・3匹ときつねの関係では、約8割、心情の理解では、約7割の児童が探究レベルの読みをすることができていた。また、全員の児童が自分の考えをもてるようになった。

ワークシートでは、自分の考えをワークシートいっぱいを書くことができていた児童が多数いた。全児童の中から5人紹介する。抽出児童は、学力がさまざまな児童から選んだ。

A児

The image shows a student's handwritten worksheet for the story 'The Tale of the Fox' (狐の物語). The worksheet includes a reading progress chart with 10 rows and 3 columns. The first column is labeled '教科書の文' (Text from the textbook) and contains the text: 'きつねのからだに、ゆうきがりんりとわいた。' The second column is labeled '大切な気持ちをグラフにあらわそう。' (Express important feelings on a graph) and contains a series of circles representing a graph. The third column is labeled '大切な気持ちをグラフにあらわそう。' (Express important feelings on a graph) and contains a series of circles representing a graph. The student has written 'りゆう' in the third column. To the right of the chart is a box for '名前' (Name) and a section for '四場面の挿絵' (Illustration of four scenes). The student has written 'め' in a circle and 'きつねのおきやくさま' in a box. There are several handwritten notes and drawings, including a large cloud-like shape with text inside and a box labeled '四場面のきつねの表情' (Expression of the fox in four scenes).

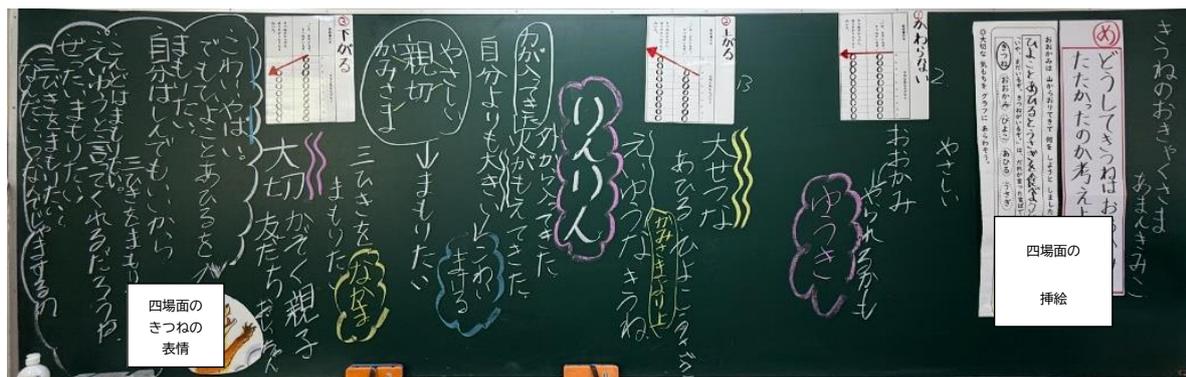
「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

E児はきつねになりきり、3匹の動物に話しかけるように考えをもち、ワークシートに書くことができている。また、積極的にペア交流を行い、友だちの考えに触れることができている。

6人の抽出児童のワークシートから見て分かるように、多様な考えをもつことができている。また。ペア交流では、いいねシールをきっかけに楽しんで積極的に交流する姿が見られた。

③ 全体交流での様子

写真3



自分よりも大きい相手と戦うことは怖いですが、叙述に「ゆうきがりんりんとわいた」とあるから勇気がわいたことや、3匹は家族や親子、友だちのように大切な仲間だから守りたいという考えが出てきた。

また、自分は死んでもいいから3匹を守りたいという意見や「やさしい、親切、かみさま」の次は英雄と言われるかもしれないから守りたいなどという考えが出てきた。

ペア交流の後に全体で交流をすることで、多種多様な考えに触れることができた。

④ アンケートの結果から

本単元では単元の実施前と実施後に本学級の全児童を対象にアンケートを記録した。結果は以下の通りである。

(ア) 国語の学習意欲について

国語の学習に関する意識	実施時期	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
国語の学習が好き	実施前	50%	9.1%	13.6%	27.3%
	実施後	70.8%	20.8%	8.3%	4.2%
国語の学習が得意	実施前	27.3%	27.3%	31.8%	13.6%
	実施後	66.7%	20.8%	8.3%	4.2%
国語の学習の内容がよく分かる	実施前	31.8%	18.2%	36.4%	13.6%
	実施後	83.3%	12.5%	0%	4.2%

実施前では、この学級の約半数が、「国語の学習が好き」「国語の学習が得意」「国語の学習の内容がよくわかる」という質問に約半数が「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。しかし、実施後は約9割の児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」に回答されてい

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

る。このことから、「きつねのおきゃくさま」の単元を学習することで、より考え、考えたことを基に活発に交流することで、理解することができ、国語を好きになった児童が多くなったと考えられる。

（イ）考えをもつことについて

国語の学習に関する意識	実施時期	どちらかといえば		あてはまらない	
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
自分の考えをワークシートに書くことが好き	実施前	27.3%	18.2%	22.7%	31.8%
	実施後	79.2%	20.8%	0%	0%
自分の考えをもつことができる	実施前	40.9%	31.8%	4.5%	22.7%
	実施後	87.5%	8.3%	4.2%	0%

本学級には自分の考えをもつことが苦手な児童が多くいた。特に、自分の考えをもつことができず、口頭で話を聞き、書き言葉にしてゆっくりと読み上げないと書けない児童や手本を書いてあげないと自分の考えを書くことができず、個別の対応が必要とする児童が数名いた。また、自分の考えを「面白かった。」などの一文でしか書けない児童が学級の3分の1程度いた。しかし、「きつねのおきゃくさま」ではほとんどの児童が自力で考えをワークシートいっぱいに記述することができるようになった。また、叙述を基に自分の考えをもつことができるようになった児童も多くなった。その結果、ワークシートを書くことが好きな児童や自分の考えをもつことができる児童を増やすことに繋がったと考える。

（ウ）交流について

国語の学習に関する意識	実施時期	どちらかといえば		あてはまらない	
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
話合いをすることは好き	実施前	54.5%	18.2%	0%	27.3%
	実施後	95.8%	0%	4.2%	0%
話合いをすることはとても役にたつと思う	実施前	81.8%	9.1%	0%	9.1%
	実施後	95.8%	4.2%	0%	0%
友だちが自分の考えを聞いてくれるのはうれしい	実施前	59.1%	9.1%	0%	31.8%
	実施後	79.2%	12.5%	8.3%	0%
友だちの考えを聞くことは楽しい	実施前	72.7%	13.6%	4.5%	9.1%
	実施後	75%	25%	0%	0%
ペアでの話合いで自分の考えをつたえることができる	実施前	59.1%	18.2%	0%	22.7%
	実施後	79.2%	20.8%	0%	0%

話合いをすることが好きという質問では、1名を除き全員が話合いをすることが好きだと回答した。ペア交流や全体交流での交流を充実させた成果と言える。特にペア交流では、いいねシールの取り組みをきっかけに楽しそうに友だちの良いところを見つける姿が見られた。また、児童が自主的に赤鉛筆を使ってどこが良いと思ったのか線を引いている児童も多くいた。このように、楽しんで取り組むことができたことを理由にアンケートの結果が改善されたと考えられる。

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

第4 研究の成果

本研究の成果として3点挙げることができる。

1点目は、自分の考えをもつことができる児童を増やすことができたことである。本単元の実施前と比べるとどの児童も自力で考えをもつことができ、書く分量を増やすことや考える力を上げるができた。また、叙述を基にして考えをもてる児童が増え、空想だけによって考えをもつ児童が少なくなった。

2点目は、交流を充実させることができたことである。「交流する」の手だてにより、友だちの考えと自分の考えを比べたり友だちの考えの良いところを積極的に見つけたりする児童を増やすことができた。活発に意見交流をする中で、自分の考えを深めることができた児童が多数いた。

3点目は、アンケートの結果から分かる通り、国語が好きな児童を増やすことができたことである。本単元を通し、児童が楽しんで国語の学習に取り組む姿が見られるようになった。

以上のことから、考えを深めるための授業構成は一定の効果があると言えるだろう。

第5 今後の課題

本研究から見えた今後の課題として、以下の2点が考えられる。

「考えをもつ」、「交流する」、「見直す」の授業過程の中の「見直す」の活動をさらに充実させていきたい。「考えをもつ」で自分の考えをもち「交流する」の中で交流の中で友だちの良いところを多数見つけることができるようになった。学習感想を見る中では、「見直す」活動の中で、友だちの考えを取り入れる児童や認める児童は多数いたが、自分の考えを聞き、自分の考えを変えるにいたる児童は少なかった。本研究では、「見直す」時間を十分に確保することしかできていないため、さらに1時間の活動を精選することにより、「見直す」ところを充実させていきたい。

2点目は、時間の確保である。考えを書く分量が増え、書く時間や交流の時間が以前よりもかかるようになった。そのため全体交流の時間が十分に確保することができず、「何でそう思ったのか」深く学級全体で考える時間を確保することができないことがあった。授業構成やワークシートを再度見直し、さらに深めることができる授業にしていきたい。

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

引用文献

- (1) 文部科学省(2018)『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総則編』
- (2) 文部科学省(2018)『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 国語編』
- (3) 1に同じ
- (4) 田村学(2018)『深い学び』東洋館出版
- (5) 1に同じ
- (6) 2に同じ
- (7) 鶴田清司(2003)「第2節 文学作品（物語・小説・詩）」、柴田義松、鶴田清司、阿部昇 [編] (2003)『あたらしい国語科指導法』学文社
- (8) 7に同じ
- (9) 2に同じ
- (10) 土居正博(2022)『クラス全員に基礎学力をつける！2年生担任のための国語科指導法-低学年のうちで習得させたい国語の学び方-』明治図書
- (11) 上月康弘(2023)「小学1・2年物語教材を読み解く 教材研究の目」、松本修 [監] 佐藤多佳子、上月康弘 [編]『小学校国語科 物語の教材研究大全』
- (12) 三浦剛(2021)『国語授業イノベーションシリーズ 自ら動いて読みを深める フリー交流 6つのバリエーション』東洋館出版

参考文献

- ・あまんきみこ、長崎伸仁、中瀬正堯(2019)『あまんきみこと教科書作品を語らう』東洋館出版
- ・石丸憲一 [編] 東京・国語教育探究の会 [著] (2020)『考えの形成を促す文学の発問・交流モデル』明治図書
- ・石丸憲一 [編] 東京・国語教育探究の会 [著] (2024)『国語教師のための授業コンプリート』明治図書
- ・桂聖 [編] N5 国語授業力研究会 [著] (2018)『「めあて」と「まとめ」の授業が変わる「Which 型課題」の国語授業』東洋館出版
- ・高橋達哉、三浦剛(2018)『「読むこと」の授業が10倍面白くなる！国語教師のための読解ツール10&24の指導アイデア』明治図書
- ・鶴田清司(1988)『文学教育における〈解釈〉と〈分析〉』明治図書

補助資料

【補助資料1】単元計画

次	時	学習目標	学習活動	評価規準（評価方法）
1	第1時	<p>単元目標や場面分けを確認し、学習の見通しをもつことができる。</p> <p>【構造と内容の把握】</p>	<p>1 単元の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">くりかえしに気をつけて、とうじょう人物のようすを読もう。</div> <p>2 くりかえしがある絵本の読み聞かせを聞き、くりかえしについて意識させる。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">きつねのおきゃくさまを読んでかんそうをもとう。</div> <p>4 教師による範読を聞き、本文を七つの場面に分ける。</p> <p>5 初発の感想を書く。</p> <p>6 学習を振り返る</p>	
	第2・3時	<p>場面ごとに登場人物の行動をまとめることができる。</p> <p>【構造と内容の把握】</p>	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">場めんごとのとう場人ぶつの行どうをまとめよう。</div> <p>2 音読をする。</p> <p>3 繰り返しの場面（一～三場面）について行動の違いをまとめる。</p> <p>4 四～七場面の登場人物の行動をまとめる。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	
2	第4時	<p>第1場面のきつねの行動から気持ちを想像することができる。</p>	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">一場めんではうっとなつたきつねのようすをそうぞうしよう。</div>	<p>【知識・技能】</p> <p>言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働き</p>

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

	【精査・解釈】	<p>2一場面を音読する</p> <p>3かくにんタイム 本文の叙述からきつねの行動がわかる文を抜き出し、確認する。</p> <p>4じっくりタイム ぼうっとなったきつねはどう思ったか考えワークシートにまとめる。</p> <p>5こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>	<p>があることに気付いている。 (発言・ワークシートの記述)</p> <p>【思考、判断、表現】 場面のように着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言・ワークシートの記述)</p>
第5時	<p>第2場面のきつねの行動から気持ちを想像することができる。</p> <p>【精査・解釈】</p>	<p>1本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>二場めんではぼうっとなったきつねのようすをそうぞうしよう。</p> </div> <p>2二場面を音読する。</p> <p>3かくにんタイム 本文の叙述からきつねの行動がわかる文を抜き出し、確認する。</p> <p>4じっくりタイム ぼうっとなったきつねはどう思ったか考えワークシートにまとめる。</p> <p>5こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動を基にすすんでようすを考えている。 (個別学習・話合いの様ようす)</p>
第6時	<p>第3場面のきつねの行動から気持ちを想像することができる。</p> <p>【精査・解釈】</p>	<p>1本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>三場めんではぼうっとなったきつねのようすをそうぞうしよう。</p> </div> <p>2三場面を音読する。</p>	

		<p>3かくにんタイム 本文の叙述からきつねの行動がわかる文を抜き出し、確認する。</p> <p>4じっくりタイム ぼうっとなったきつねはどう思ったか考えワークシートにまとめる。</p> <p>5こうりゅうタイム ①ペアで交流をする。 ②全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>	
第7時	<p>一～三場面のきつねの行動から、あひる・ひよこ・うさぎに対する思いの変化を考える。 【精査・解釈】</p>	<p>1本時のめあてを確認する。 くりかえしの場めんをくらべよう。</p> <p>2一～三場面を音読する。</p> <p>3かくにんタイム どんなおにいちゃんと言われたかワークシートに抜き出し、確認する。</p> <p>4じっくりタイム あひる・ひよこ・きつねに対しての食べたい気持ちをグラフに表す。</p> <p>5こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>	<p>【思考、判断、表現】 文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもっている。 (発言・ワークシートの記述)</p>
第8時 本時	<p>きつねはどんなことを考えてきつねと戦ったのか考える。 【精査・解釈】</p>	<p>1本時のめあてを確認する。 どうしてきつねはおおかみとたたかったのか考えよう。</p> <p>2四場面を音読する。</p> <p>3かくにんタイム 本文の叙述からおおかみときつねの行動がわかる文を抜き出し、確認する。</p>	

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

			<p>4じっくりタイム おおかみと戦った時、きつねは心の中でどんなことを考えていたのかを考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>5こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>	
第9時	<p>物語の最後、きつねがしあわせかふしあわせか考え、自分の考えをもつことができる。 【精査・解釈】</p>	<p>1本時のめあてを確認する。 きつねの行どうからきつねの気持ちをそうぞうしよう。</p> <p>2四場面から最後まで音読をする、</p> <p>3かくにんタイム きつねはどのように戦いどうなったのか文の叙述を抜き出す活動を通しきつねの行動を確認する。</p> <p>4じっくりタイム きつねは最後幸せか不幸せか考え、自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>5こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。</p> <p>6じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。</p> <p>7学習を振り返る。</p>		
3第10時	<p>きつねの気持ちについて考えをもち、ワークシートにまとめることができる。 【考えの形成】 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、違いがある</p>	<p>1本時のめあてを確認する。 今まで学んだことをもとにきつねが何と言うかそうぞうしよう。</p> <p>2じっくりタイム もしも、お空からおはかの前でかなしむひよことあひるとうさぎのことをみていたらきつねはどんなことを考えているか考える。</p>	<p>【思考、判断、表現】 文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもっている。 (発言・ワークシートの記述)</p>	

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

	<p>ことに気付くことができる。 【共有】</p>	<p>3こうりゅうタイム ① ペアで交流をする。 ② 全体交流をする。 4じっくりタイムプラス 友だちの考えを聞いた上で、自分の考えを見直す。 5学習を振り返る。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 登場人物の行動を基にすすんでようすを考えている。 (個別学習・話合いのようす)</p>
--	-------------------------------	---	--

「児童同士の交流を通して考えを深められる読むこと（文学的文章）の授業をめざして」

【補助資料2】

ワークシート

第1時

学しゅうかんそう	<p>① きつねのおきやくさま</p> <p>② 名前</p>	<p>③ きつねのおきやくさまを読んだかんそうをもとう。</p> <p>④ たんげんのめあて</p> <p>⑤ きつねのおきやくさまを</p>	<p>⑥ 読もう。</p> <p>⑦ 読もう。</p> <p>⑧ 読もう。</p> <p>⑨ 読もう。</p> <p>⑩ 読もう。</p> <p>⑪ 読もう。</p> <p>⑫ 読もう。</p> <p>⑬ 読もう。</p> <p>⑭ 読もう。</p> <p>⑮ 読もう。</p> <p>⑯ 読もう。</p> <p>⑰ 読もう。</p> <p>⑱ 読もう。</p> <p>⑲ 読もう。</p> <p>⑳ 読もう。</p> <p>㉑ 読もう。</p> <p>㉒ 読もう。</p> <p>㉓ 読もう。</p> <p>㉔ 読もう。</p> <p>㉕ 読もう。</p> <p>㉖ 読もう。</p> <p>㉗ 読もう。</p> <p>㉘ 読もう。</p> <p>㉙ 読もう。</p> <p>㉚ 読もう。</p> <p>㉛ 読もう。</p> <p>㉜ 読もう。</p> <p>㉝ 読もう。</p> <p>㉞ 読もう。</p> <p>㉟ 読もう。</p> <p>㊱ 読もう。</p> <p>㊲ 読もう。</p> <p>㊳ 読もう。</p> <p>㊴ 読もう。</p> <p>㊵ 読もう。</p> <p>㊶ 読もう。</p> <p>㊷ 読もう。</p> <p>㊸ 読もう。</p> <p>㊹ 読もう。</p> <p>㊺ 読もう。</p> <p>㊻ 読もう。</p> <p>㊼ 読もう。</p> <p>㊽ 読もう。</p> <p>㊾ 読もう。</p> <p>㊿ 読もう。</p>
----------	---------------------------------	---	---

第2・3時

学しゅうかんそう	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">七</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">六</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">五</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">四</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">場面</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">七場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">六場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">五場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">四場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">さし絵</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center;">書きこむ</td> </tr> </table>	七	六	五	四	場面	七場面の挿絵	六場面の挿絵	五場面の挿絵	四場面の挿絵	さし絵					書きこむ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">三</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">二</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">一</td> <td style="width: 12.5%; text-align: center;">場面</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">三場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">二場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">一場面の挿絵</td> <td style="text-align: center;">さし絵</td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center;">書きこむ</td> </tr> </table>	三	二	一	場面	三場面の挿絵	二場面の挿絵	一場面の挿絵	さし絵				書きこむ
七	六	五	四	場面																									
七場面の挿絵	六場面の挿絵	五場面の挿絵	四場面の挿絵	さし絵																									
				書きこむ																									
三	二	一	場面																										
三場面の挿絵	二場面の挿絵	一場面の挿絵	さし絵																										
			書きこむ																										

第4時

学しゅうかんそう

一場面の
きつねの
表情

◎ぼうつとなった きつねは
どう思ったかな？

りゆう

それは たべさせた。

きつねは何のために ひよこのせわを しましたか。

きつねは 何のために ひよこのせわを しましたか。

どんなお兄ちゃんと言われましたか。

お兄ちゃん

それを聞いた きつねは どう思いましたか。

それを聞いた きつねは どう思いましたか。

お兄ちゃん

それは

一場面の
挿絵

④ きつねのおきやくさま③ 名前（
一場めんで ぼうつとなった きつねの よう子を そうぞうしよう。

第5時

学しゅうかんそう

二場面の
きつねの
表情

◎ぼうつとなった きつねは
どう思ったかな？

りゆう

それは だった。

きつねは何のために ひよこことあひるの せわを しましたか。

きつねは 何のために ひよこことあひるの せわを しましたか。

どんなお兄ちゃんと言われましたか。

お兄ちゃん

それを聞いた きつねは どう思いましたか。

それを聞いた きつねは どう思いましたか。

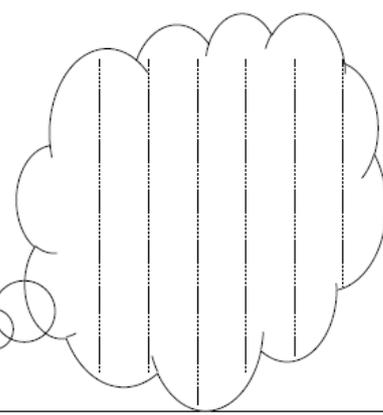
お兄ちゃん

それは

二場面の
挿絵

④ きつねのおきやくさま④ 名前（
二場めんで ぼうつとなった きつねの よう子を そうぞうしよう。

第6時

学しゅうかんそう _____ _____ _____		◎ぼうつとなつた きつねは どう思ったかな？	きつねのおきやくさま⑤ 名前) (め 三場めんてぼうつとなつた きつねのよう子を そうぞうしよう。 きつねは何のためにひよことあひるとうさぎのせわをしましたか。 どんな お兄ちゃんと言われましたか。 お兄ちゃん それを聞いた きつねはどう思いましたか。 そうとも みたいに そだてた。 三場面の挿絵
三場面の きつねの 表情		りゆう _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____	

第7時

学しゅうかんそう _____ _____ _____	三場めん 三場面の挿絵	二場めん 二場面の挿絵	一場めん 一場面の挿絵	場めん さし絵 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	◎食べたい気持ちをグラフにあらわそう。 三場めん お兄ちゃん 二場めん お兄ちゃん 一場めん お兄ちゃん	(め きつねのおきやくさま⑥ 名前) (め くりかえしの場めんをくらべよう。 どんなおにいちゃんと言われたかな	
ぼうつとなつた 三人が、「おきやくさま 三場めん」の絵をし ているのを見て、 やって来た。 やつて来た。 やつて来た。		二人が 「二場めんお兄ちゃん」の 絵をしているのを見て、 ぼうつとなつた。		ひよこがあるひ やつて来た。 ひよこがあるひ やつて来た。 ぼうつとなつた		ひよこがあるひ やつて来た。 ひよこがあるひ やつて来た。 ぼうつとなつた	
ひよこがあるひ やつて来た。 ひよこがあるひ やつて来た。 ぼうつとなつた		ひよこがあるひ やつて来た。 ひよこがあるひ やつて来た。 ぼうつとなつた		ひよこがあるひ やつて来た。 ひよこがあるひ やつて来た。 ぼうつとなつた		りゆう _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____	

第8時

学しゅうかんそう

四場面の
きつねの
表情

◎おおかみとたたかった時 きつねは心の中でどんなことを考えていたかな。

教科書の文	大切な気持ちグラフ										りゆう	
「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」	<input type="radio"/>											
きつねのからだに、ゆうきがりんりんとうわいた。	<input type="radio"/>											

◎大切な気持ちをグラフにあらわそう。

「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」は、だれが言った言葉ですか。

きつね おおかみ ひよこ あひる うさぎ

おおかみは山からおりてきて何をしようと思いましたか。

四場面の挿絵

① きつねのおきやくさま⑦ 名前 ()

② どうしてきつねはおおかみとたたかったのか考えよう。

第9時

学しゅうかんそう

りゆう

◎きつねはさいご しあわせ? ふしあわせ?

しあわせ? ふしあわせ?

七場面の挿絵

◎きつねはどのようになたかいましたか。

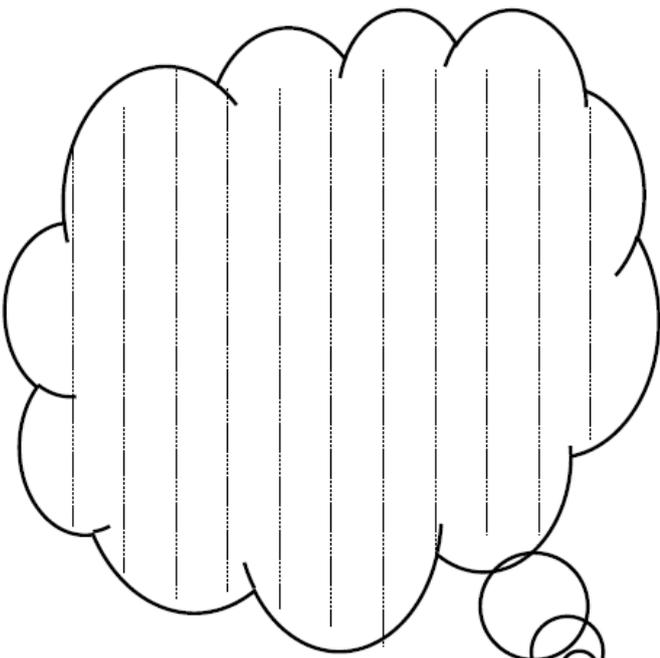
きつねはどのようになたかいましたか。

おおかみとのたたかいはどうなりましたか。

③ きつねのおきやくさま⑧ 名前 ()

④ きつねの行どうから気持ちをそうぞうしよう。

第10時

<p>学しゅうかんそう</p> <p>縦線あり</p>	<p>りゆう</p> <p>縦線あり</p>		<p>◎もしも、お空から、おはかの前でかなしむ ひよことあひるとうさぎのことを見ていたら きつねはどんなことを言うかな？</p>	<p>きつねのおきやくさま⑨ 名前（ め） 今まで学んだことをもとにきつねが何と言うか そうぞうしよう。</p>
		<p>七場面の 挿絵</p>	<p>空の画像と きつねがのぞいている挿絵 (空から覗いている風の画像)</p>	